

Social&Environmental Report

社会・環境報告書

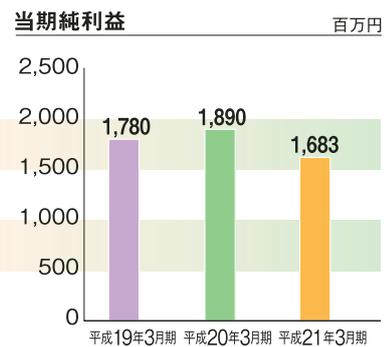
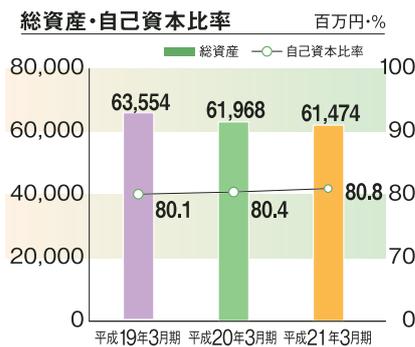
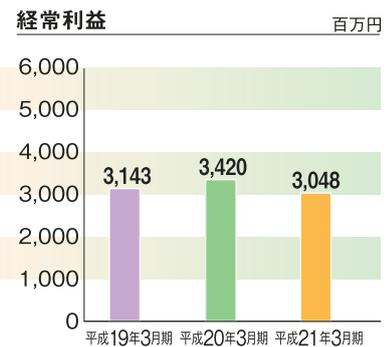
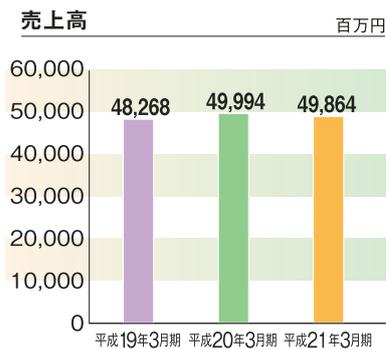
2009



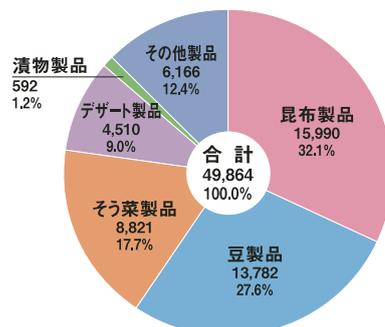
コジック

会社名	フジッコ株式会社
代表取締役社長	福井 正一
本社所在地	神戸市中央区港島中町6丁目13番地4
本社電話番号	078-303-5911 (代)
事業内容	昆布製品、豆製品、そう菜製品およびデザート製品等を主体とした食品加工業
創業	昭和35年11月7日
資本金	65億6,653万円 (平成21年3月31日 現在)
従業員	2,086名 (フジッコグループ全従業員)
工場	兵庫3、埼玉1、千葉1、神奈川1
物流センター	兵庫1、埼玉1
営業所	全国25拠点
連結子会社	フジコン食品(株)、フジッコワイナリー(株)、味富士(株)、フジッコフーズ(株)

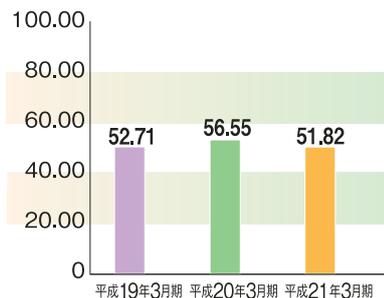
業績の推移(連結)



製品分類別売上高 百万円・% (平成21年3月期実績)



1株当たり当期純利益 円



目次

会社概要
ごあいさつ

マネジメント方針

- コーポレートガバナンスの確立 [01]
 - ・業務執行・経営の監視
 - ・内部統制システムの整備状況
- コンプライアンスの徹底 [02]
 - ・フジッコグループの倫理基準

社会性報告

- 「ふじっ子だから安心」と言われ続けるために… [04]
 - ・ふじっ子あんしんシステム
- 社会貢献活動 [06]
 - ・食育活動
 - ・昆布ミネラル国際支援
 - ・献血運動への協力
 - ・山岸八郎奨学基金
 - ・ベルマーク運動への参加
 - ・四川省大地震への義援金
 - ・障害者の雇用率について
- ステークホルダーとのコミュニケーション [09]
 - ・お客様とのコミュニケーション
 - ・株主の皆様とのコミュニケーション
 - ・投資家向けIR活動の充実

環境報告

- 環境基本方針 [12]
 - ・環境基本理念
- 2008年度の環境管理活動の状況 [13]
 - ・環境マネジメント組織
 - ・環境目的・目標
 - ・環境負荷低減のための取り組み
 - ・環境への負荷
- 環境に関するご指摘 [18]

事業所による環境管理活動レポート

- 事業所による環境管理活動 [20]
- 環境保全に関する取り組みの歴史 [31]

対策範囲

【対象期間】2008年4月1日～2009年3月31日

【対象組織】フジッコ株式会社および国内関係会社

フジコグループは2010年11月に創業50周年を迎えます。これもお客様やお取引先、株主の皆様の温かいご支援、ご指導の賜物と深く感謝申し上げます。

2008年度は100年に1度の大不況といわれる景気悪化に直面し、企業は生き残りを懸けた競争に身をさらされました。また、環境面では国レベルでの地球温暖化を防ぐための対策に積極的な姿勢が打ち出され、食品業界では食に関する不祥事が後を絶たず、お客様の食に関する不信感を募らせる1年でもありました。

企業を取り巻く経営環境は激変していますが、当グループは、創業以来「あんしんのおいしさ」を永遠のテーマとし、食の安全に取り組んでおります。事業や食育活動を通じて、お客様の食に関する問題解決への取り組みは、「食」に携わる企業としての社会的責任であり、当グループがそのお役に立てることに喜びを感じております。また、当グループは「地球にやさしい会社」を標榜し、その考えを具現化した商品の開発や製法革新にも積極的に挑戦し、少しでも地球環境の保全、循環型社会の推進に役立つことでステークホルダーの皆様の信頼に応えていきたいと考えております。

毎年当社は、フジコグループの社会貢献面と環境面の活動をまとめた「社会・環境報告書」を発行しており、今回は2008年度の活動をまとめた「社会・環境報告書2009」を発行いたします。本報告書で当グループのCSR活動の進捗状況をお伝えするわけですが、フジコグループのCSRのレベルはまだまだ低く、レベルアップを図るためには多くの課題を解決する必要があります。その課題解決のためには、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションが必要不可欠であると考えております。皆様の忌憚のないご意見、ご鞭撻を賜り、私たちの活動に生かしていくとともに、継続して課題解決に取り組んでまいります。

フジコの心

－共生と感謝の喜びを込めて－

社は

創造^{ひと}－^{すじ}路

Always Be Creative

私たちの合言葉 「すこやかフジコ」

私たちは、食品企業の従業者として、温故知新の精神と医食同源の原点を見つめ、次の通り宣言します。

【三つの約束】（一を「ひとつ」と読みます）

- 一、私たちは、安心の品質と価値を誠実に提供します。
- 一、私たちは、自然の恵みの尊さを誠実に演出します。
- 一、私たちは、本当のおいしい味を誠実に追求します。

【三つのアタック】

- 一、技術向上、基礎力の習得に努めます。
- 一、挑戦意欲、高いレベルを目指します。
- 一、迅速正確、進んで物事にあたります。

【七つの実行】

- 一、全社目標と部門目標の一致を常に心がけます。
- 一、部門目標と個人目標の一致を常に心がけます。
- 一、報告・連絡・相談を徹底します。
- 一、相互の協力と連携を徹底します。
- 一、正確な処理と確認を徹底します。
- 一、社内・社外の情報を正確に把握し、積極的に行動します。
- 一、世界の環境と資源の問題に注目し、積極的に行動します。

私たちは、この「すこやかフジコ」を心の支えとして、法とルールを守り、力強く革新と成長の道を歩んでまいります。



2009年9月

フジコ株式会社
代表取締役社長

福井 正一

コンプライアンスの徹底

フジッコグループの倫理基準

フジッコグループは、お客様の信頼にお応えしていくため、コンプライアンスを重要な経営課題と捉えています。コンプライアンスへの対応をより明確にするため、「倫理基準」を定めました。グループの役員および職員は、本基準を誠実に遵守し、社会的責任を果たすことに努めてまいります。

倫理基準

【①法令の遵守】

- 国内外の法令および規則、社内規則を遵守し、公序・良俗を大切にして、高い倫理観のもとで行動します。

【②人権の尊重】

- 人権を尊重し、人種、信条、宗教、国籍、年齢、性別、門地、心身などに基づく差別をしません。
- 性的嫌がらせおよび嫌がらせと誤解される発言、行動を認めません。
- 権力、地位を不当に利用した嫌がらせを認めません。

【③安全、安心な製品への取り組み】

- 食品製造業に携わる者として、常に安全で安心な製品づくりに取り組みます。

【④顧客取引先との関係】

- 信義、誠実、公正、透明な対応を心がけ良好な関係の構築に努めます。
- 公正かつ自由な競争を維持、促進することに努めます。
- 取引先等の役員に対し贈賄行為、不正な利益の供与を行いません。また、受けることはありません。

【⑤職場環境の確保】

- 労働関係法令を遵守し、安全・衛生で健康に十分配慮した、働きやすい職場環境の確保に取り組みます。

【⑥守秘義務、知的財産権の尊重】

- 会社の機密情報を許可なく第三者に漏洩したり、不正に使用しません。
- 顧客、取引先など第三者の機密情報も会社の機密情報と同様に扱います。
- ソフトの不正コピーなど第三者の知的財産権を侵害しません。

【⑦公私の厳密な区別】

- 会社の利益に反する行為は行いません。
- 会社の資産や経費を会社の利益に反して使用することはありません。

【⑧反社会的勢力への姿勢】

- 反社会的勢力および団体に対しては、毅然とした態度で臨み、反社会的行為には一切加担しません。

【⑨地球環境保全への配慮】

- 地球環境の保全に役立つことを考え、有害な行動をとりません。

【⑩社会的責任の遂行】

- 良き企業市民として、よりよい社会の実現にむけ積極的に社会貢献に努めます。
- 様々な関係者の理解および支持を得られるよう積極的に企業情報を開示し、透明性の高い経営を行います。

社会性報告

Social Report

Contents

- 「ふじっ子だから安心」と言われ続けるために… [04]
 - ・ふじっ子あんしんシステム
- 社会貢献活動 [06]
 - ・食育活動
 - ・昆布ミネラル国際支援
 - ・献血運動への協力
 - ・山岸八郎奨学基金
 - ・ベルマーク運動への参加
 - ・四川省大地震への義援金
 - ・障害者の雇用率について
- ステークホルダーとのコミュニケーション [09]
 - ・お客様とのコミュニケーション
 - ・株主の皆様とのコミュニケーション
 - ・投資家向けIR活動の充実

「ふじっ子だから安心」と言われ続けるために…

ふじっ子あんしんシステム

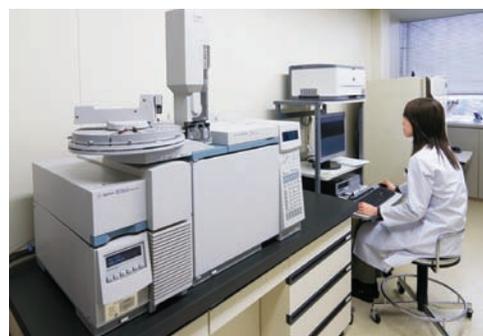
作り方の努力だけではカバーしきれないものだけに、原材料の安全性確認は厳密に行います。フジッコ(株)の本社内に専門部署「食品安全検査室」を設置、国内産・海外産を問わず、残留農薬検査をはじめ様々な安全検査を実施しています。



【1. 残留農薬検査】

フジッコが使う原材料農産物は、国内産・海外産を問わず、すべて「残留農薬検査」を実施しています。現在の対象は豆をはじめ野菜などの主要原材料164種。有機リン系などの危険度の高いものから一般薬まで300種類の農薬をカバー。残留の有無とその量を検出する最新鋭のGC/MSシステムを用いて検査しています。

※豆類・根菜・野菜など使用する全ての農作物について
300種類の残留農薬を測定



【2. 動物用医薬品検査】

フジッコ製品で使用している魚介類・畜産物などの動物性食材は約30種類。国内産・海外産を問わず、私たちはこれらの動物性食材に対して、抗生物質や抗菌性物質の残留がないかを、同一サンプルを取り寄せ「動物用医薬品検査」を実施して安全性を確認しています。



【3.遺伝子組換え検査】

フジッコがお届けしている製品の原料には「遺伝子組換え作物」は一切使用していません。国内産大豆を中心に、栽培方法を確認できる原産地のものを厳選し、検査機関の証明に加えて社内でもロットごとの遺伝子組換え検査を行い、完全を期しています。



【4.アレルギー物質検査】

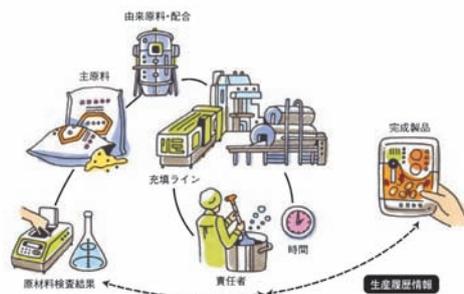
生産ラインではいろいろな食品を製造します。そこで、もし万が一、製品に表示をしていないアレルギー物質が混入することがないように、工場では「5大アレルゲン」を含む食材の使用後は、その生産ラインの拭き取り検査を行い、アレルゲンが残留していないかを確認。さらに、「食品安全検査室」で再検査し、安全を確認しています。



【5.フジッコトレースシステム】

製品のひとつひとつの詳細な履歴を掌握・管理するトレースシステムを採用。残留農薬・遺伝子組換え検査などの結果に加え、材料情報・工程情報を把握し、その製品の生産履歴が直ちに分かる仕組みになっています。その一部の情報はお客様が自由に調べることができるように公開しています。

※現在、おかず畑、つけもの百選、水煮、ソフトデリの各シリーズ商品について実施



フジッコトレースシステムの概念図

社会貢献活動

食育活動

【フォーラムの開催】

カスピ海ヨーグルトの素晴らしさを世間一般に広く知っていただくために「カスピ海ヨーグルトフォーラム」を東京・兵庫で開催しました。今回のフォーラムでは、カスピ海ヨーグルトについて新たに確認された「血中コレステロール値の改善効果」の発表がありました。また、コーカサス地方の長寿者のように、「いい一杯(1・1・1・8)」のヨーグルトを毎日飲んで「いきいきいっぱい(1・1・1・8)」の元気あふれる暮らしを願うという語呂から11月18日は“カスピ海ヨーグルトの日”と制定されております。



【料理教室・食育授業の開催】

東京FFセンターや本社のパーティキッチンにて、主婦を対象に“昆布の新しい使い方”を紹介した「昆布でおうちフレンチ料理教室」や“親子でおせちを学ぼう”をテーマに「世界にひとつだけの昆布巻料理教室」、団塊世代のお父さんが作る「お父さんの自活ランチ料理教室」等の料理教室を開催しました。また、大阪市の博愛社学園幼稚園では、主菜、副菜、デザートなどを入れる場所がわかるような仕切りの付いたお弁当箱「おべんとう丸くん」を使い、みんなで楽しくおいしくバランスのとれたお弁当作りを行いました。



【小学生豆つかみゲーム大会】

正しいお箸の持ち方を、ゲーム感覚で楽しみながら身につけるフジッコオリジナル食育ツール「まめっ子くん」。弊社では、この「まめっ子くん」を使った「小学生豆つかみゲーム大会」を全国各地で開催しております。2008年6月21日(土)には、東京のお台場アクアシティにて「第一回全国小学生豆つかみゲーム大会」を開催しました。

楽しみながら実践することで確かに身につくものがある。これからもフジッコは、「まめっ子くん」で正しい食事作法を学んでいただけるよう、全国各地で食育イベントを続けて参ります。



昆布ミネラル国際支援

ネパールで国家的健康問題となっている「ヨード欠乏症」の根絶に努力する熱田先生を“昆布ミネラルカプセル”の無償提供で応援しています。



あつた ちかよし
熱田 親憲 先生

三洋電機退社後、関西国際大学教授を経て現在、同大学及び関西学院大学非常勤講師。講演・執筆・マーケティングコンサルタントなど多方面で活躍中。長女がネパール人男性と結婚したことでネパールが抱える社会問題を知り、支援ボランティア活動へ精力的に参画する。また、画家としての一面も持ち、情感あふれる水彩画を次々と発表。作品はインターネットでも購入でき、売上はネパール支援活動資金にあてられている。

詳しくは<http://www.atsuta-garo.com/>まで。

ヨード欠乏症って？ なぜ「昆布ミネラル」？

【「ヨード欠乏症」とは】

慢性的なヨード摂取不足により甲状腺が機能不全を起こす病気です。のどのあたりにこぶのような腫れ物ができる「甲状腺腫」と甲状腺ホルモンの分泌不全で心身の障害をきたす「クレチン症」の2種類の症状が主に見られ、これらを総称してヨード欠乏症といいます。

ヨードは海藻類に多く含まれます。海藻を日常的に食する日本ではこの病気はほとんど見られませんが、内陸地帯や山岳地帯では、ユニセフがその対策に乗り出すほど重大な健康問題となっています。自給自足の農村地帯が多く、険しい山々に囲まれた集落の多いネパールでは、特に重症患者が多いことで知られています。

【なぜ「昆布ミネラル」？】

ネパールでは、国が主導してヨードを添加した塩の摂取を勧めています。輸送手段の乏しさ・保管状態の悪さ・現地の嗜好に合わない味・病気への認知不足などが要因となって、あまり成果が見られていないとのこと。そこで熱田先生が目をつけたのが、ヨードが豊富で成分が劣化しにくい日本の「昆布」でした。しかし、もともと海藻になじみの薄いネパールの人々には、その食感と風味はなかなか親しんでもらえません。さて、どうやって食べてもらおうか…熱田先生からの相談を受けたフジッコは、独自技術で昆布エキスを抽出し粉末にした業務用製品「昆布ミネラル」をおすすめしました。これをカプセルに詰め、お薬のように飲んでもらえばどうか、と提案したのです。ヨードの薬というのは以前から存在しましたが、ヨードチンキのような化学的なものがほとんどで、効きすぎや副作用が懸念されていました。しかし、「昆布ミネラル」は天然成分そのものなので、体にやさしく自然に吸収されやすいのです。

献血運動への協力

日本赤十字社より、永年にわたる献血運動への協力に対し、銀色有功章をいただきました。また、厚生労働省が掲げる献血構造改革の中で、企業・団体に対する献血の推進対策として、献血に積極的に協力する企業・団体が行う献血活動を広く一般社会に認知していただくよう、社会貢献活動の象徴として、ロゴマークを発行することが決定され、「献血サポーター」と名づけられました。この「献血サポーター」活動に参加登録し、社会貢献活動である献血活動を一般の方々にわかりやすくPRする「献血サポーターマーク」の使用許可をいただきました。



私たちは
献血推進キャンペーンを
応援しています。

山岸八郎奨学基金

2007年6月、神戸大学より山岸会長あてに、神戸大学基金をもとにした外国人留学を対象とする奨学金制度の紹介がありました。弊社では、この主旨に賛同し、山岸八郎奨学基金として2008年4月1日より奨学金制度をスタートしました。この奨学金には「奨学金を糧にして未来に羽ばたいてほしい」との思いが込められています。

ベルマーク運動への参加

当社は、1974年4月よりベルマーク運動に参加しており、証票点数も累計で3億点を突破しております。

【ベルマーク運動とは?】

ベルマーク運動は、PTA、企業、ベルマーク財団の三つの組織がスクラムを組んで進めているボランティア活動です。この活動によって、PTAは自分の学校の設備を整えるのと同時に、へき地にある学校や特別支援学校(特殊教育諸学校)、災害被災校、さらには発展途上国の子供たちへの援助も行えます。

四川省大地震への義援金

2008年5月12日に発生した四川省の震災に対し、中国赤十字社を通じて15万元の義援金を届けました。

障害者の雇用率について

現在、障害者の法定雇用率は、従業員数の1.8%と決められておりますが、弊社はそれを上回る2.2%の雇用率となっており、2008年9月12日、障害者雇用優良事業所として兵庫県知事表彰を受賞しました。

ステークホルダーとのコミュニケーション

お客様とのコミュニケーション

【お客様相談室】

どんな小さな苦情やご意見もナマのお声で伺うのは、創業以来の習わしであります。商品の数も多くなり、大規模な調査をしても、お客様のお宅をお訪ねしてもまだまだ伺いきれないご意見や、商品・製法についてのご質問をお受けできるように、「お客様相談室」として専用ダイヤルを1993年から設けています。

株主の皆様とのコミュニケーション

【株主総会および株主懇親会の開催】

フジッコ(株)の2008年度の株主総会は2008年6月27日に開催し、157名の株主様にご出席いただきました。また、株主総会終了後には、株主の皆様と当社役員のさらなるコミュニケーションを深める機会として、2000年度より「株主懇親会」を開催し、当社商品の紹介や当社商品を使った料理を試食していただきながら、経営に関するご質問、商品や事業運営についての貴重なご意見をお聞きしています。



【株主優待制度】

フジッコ(株)は、株主の皆様に感謝の意を表すとともに、フジッコ製品をより身近に感じていただくために、1991年度より1,000株以上株式を保有する株主様に対してフジッコ製品の詰め合わせセットを毎年6月にお届けしております。



2008年度送付の当社製品 ▶

投資家向けIR活動の充実

【決算説明会の開催】

本決算および第2四半期(中間)決算発表後にアナリスト・機関投資家の皆様とのコミュニケーションを深めるため、経営トップ自身が経営戦略やその進捗状況等を説明し、質問に答える機会を設けるため、決算説明会を定期的で開催しております。

【ホームページによる情報開示】

フジッコ(株)は、さまざまなステークホルダーの皆様
に適時・適切な情報を開示するため、ホームページに
おいて情報開示を行っております。

※「フジッコ」ホームページ

<http://www.fujicco.co.jp>



環境報告



環境報告

■環境基本方針

● [12]

・環境基本理念

■2008年度の環境管理活動の状況

● [13]

・環境マネジメント組織

・環境目的・目標

・環境負荷低減のための取り組み

・環境への負荷

■環境に関するご指摘

● [18]

環境基本方針

環境基本理念

フジッコグループは、「すこやかフジッコ」を合言葉に日本の伝統食・伝統食材に基づいた、健康という付加価値をもった商品をつくり出しております。

健康という付加価値をもつには、まず、素材と従業者が健康でなくてはなりません。そのためには、地球環境が健康であることが必要不可欠であります。近年、私たちの住む地球は、科学技術の発達と生活環境の変化によって汚染が進み、食品の安全性を含め生活環境の破滅を招く事態となっております。

ここに、食を通じて社会に役立ちたいと願うフジッコは各工場において環境に配慮した生産活動を行い、地球環境の改善ならびに地球環境への負荷軽減に資するよう、たえず努力することを誓います。

環境行動指針

【1】

事業活動にかかわる環境側面を常に配慮し、環境マネジメントシステムを構築することにより環境保全活動の継続的な向上を図ります。

【2】

食品工場の宿命として水の使用量が多いこともあり、水質汚濁防止のため工場排水を重点的に管理し、地域社会との共生を図ります。

【3】

主な消費エネルギーである電力や重油の節減に取り組むとともに、廃棄物の低減化、リサイクル、リユースにも努力します。

【4】

環境基本法を中心とした環境関連の法律・規制・協定を遵守するとともに国際環境規格を守ります。

【5】

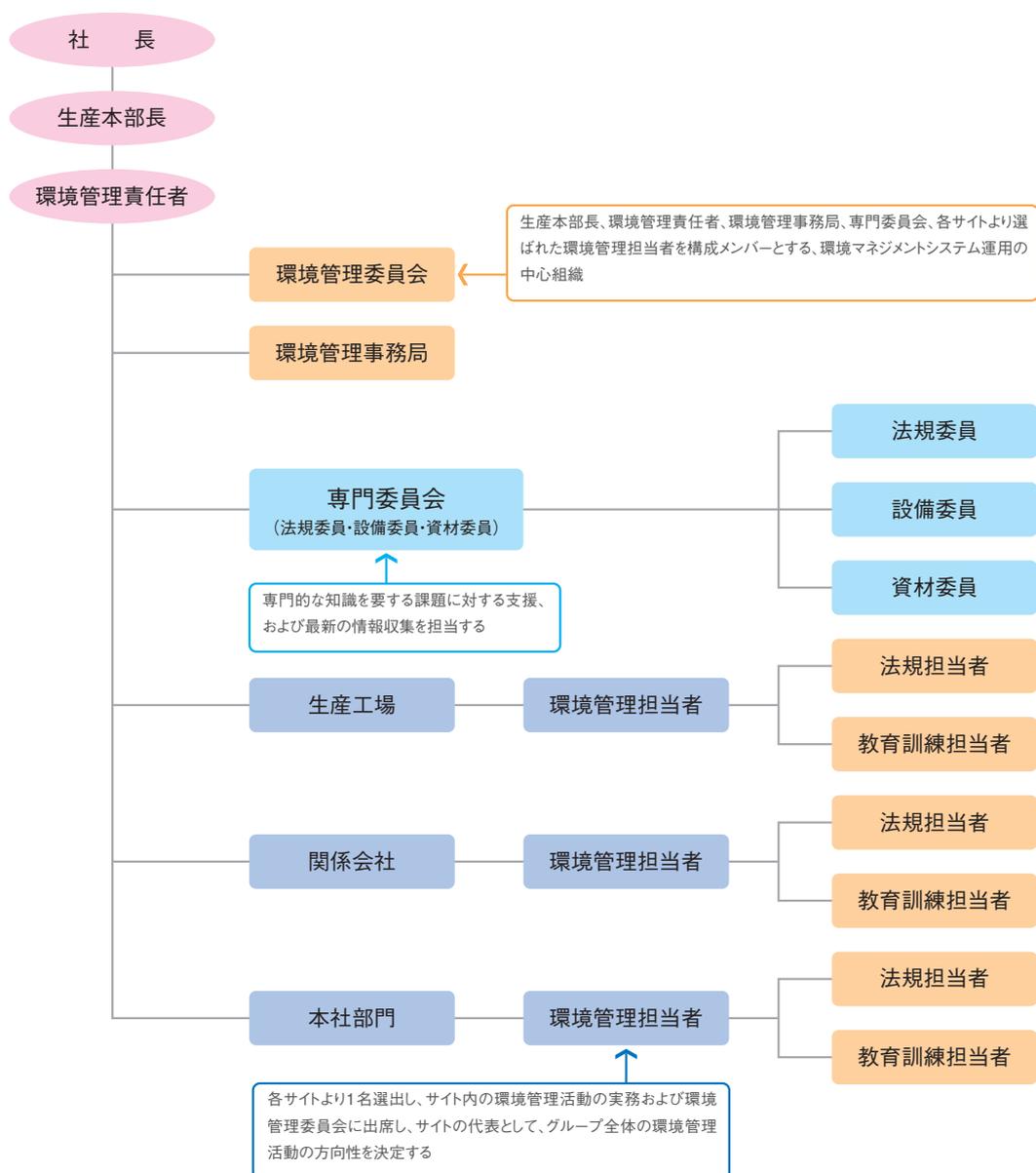
環境目的、環境目標を設定し、毎年見直しを行って改善に努めます。

2008年度の環境管理活動の状況

環境マネジメント組織

環境に与える影響が最も大きい生産部門を中心とする環境マネジメント組織で環境負荷低減のための活動を行いました。

■フジッコグループ 環境マネジメント組織



環境目的・目標

生産部門における環境側面の調査結果より、フジコグループ全体で取り組むべき環境管理活動を環境目的および環境目標として決めました。

取り組み項目

【環境目的】

5か年の中期目標を環境目的として定め、数値目標達成に向けグループ全体で取り組んでおります。

取り組み 目標

1	<p>水の使用量を削減する。</p> <p>↳ 2006年度を基準として、2011年度までに出荷重量対比で3%削減する。</p>
2	<p>食品廃棄物の再生利用等を促進する。</p> <p>↳ 2011年度までに、食品廃棄物の再生利用等の実施率を95%にする。</p>
3	<p>電力消費量を増加させない。</p> <p>↳ 2006年度を基準として、2011年度までに出荷重量対比で100%を超えないようにする。</p>
4	<p>石油系燃料(灯油・重油)の使用量を削減する。</p> <p>↳ 2006年度を基準として、2011年度までに出荷重量対比で3%削減する。</p>
5	<p>CO₂排出量を削減する。</p> <p>↳ 2007年度を基準として、2011年度までに出荷重量対比で2%削減する。</p>

【環境目標】

2008年度の数値目標を環境目標として定め、その達成に向けグループ全体で取り組みました。

1	<p>水の使用量を2006年度より、出荷重量対比で1.2%削減する。</p>
2	<p>食品廃棄物の再生利用等の実施率を93.5%にする。</p>
3	<p>電力消費量を出荷重量対比で2006年度以下にする。</p>
4	<p>石油系燃料(灯油・重油)の使用量を2006年度より、出荷重量対比で1.2%削減する。</p>
5	<p>CO₂排出量を2007年度より、出荷重量対比で0.5%削減する。</p>

環境負荷低減のための取り組み

【環境目標の達成状況】

環境目標の達成に向けグループ全体で環境負荷の低減に取り組みました。その結果、水の使用量の削減については未達成でしたが、食品廃棄物の再生利用等の実施率、電力消費量、石油系燃料の削減およびCO2排出量の削減については達成しました。

環境目標		実績
水の使用量を2006年度より、出荷重量対比で1.2%削減する。	➔	2006年対比 0.2%増加 ×
食品廃棄物の再生利用等の実施率を93.5%にする。	➔	実施率 98.3% ○
電力消費量を出荷重量対比で2006年度以下にする。	➔	2006年対比 0.4%削減 ○
石油系燃料(灯油・重油)の使用量を2006年度より、出荷重量対比で1.2%削減する。	➔	2006年対比 13.8%削減 ○
CO2排出量を2007年度より、出荷重量対比で0.5%削減する。	➔	2007年対比 1.5%削減 ○

【新しい環境目標】

2009年度の環境目標は以下の通りであります。

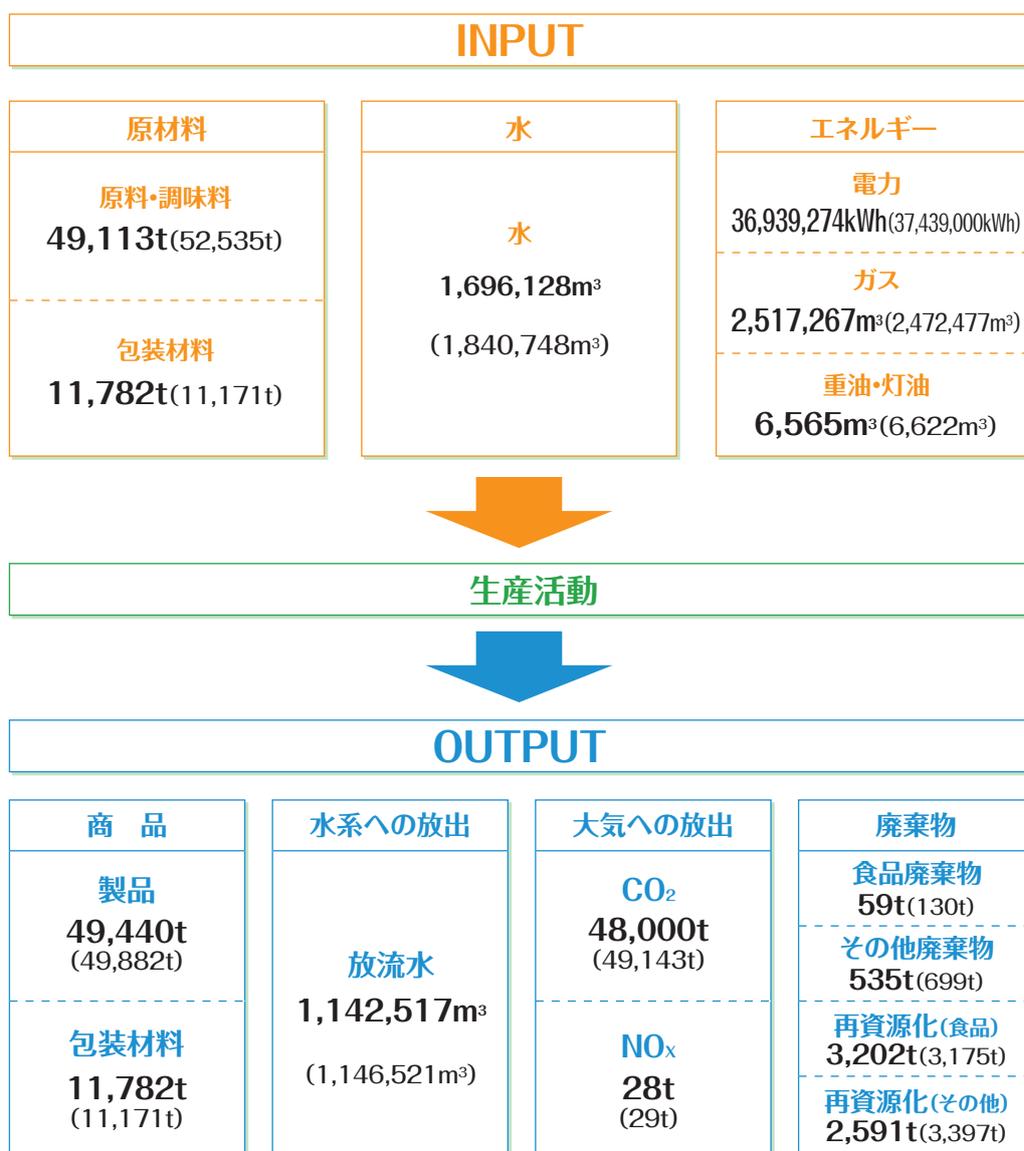
1	水の使用量を2006年度より、出荷重量対比で2%削減する。
2	食品廃棄物の再生利用等の実施率を2008年度(98.3%)に対して維持・向上させる。
3	電力消費量を出荷重量対比で2006年度以下にする。
4	石油系燃料(灯油・重油)の使用量を出荷重量対比で2008年度以下にする。
5	CO2排出量を2007年度より、出荷重量対比で1.5%削減する。

環境への負荷

下図は、2008年度のフジッコグループの生産工場における、環境への負荷をフローの形で表したものです。なお、()内は、2007年度の数値を示しています。

原材料と水、エネルギーがインプットされ、佃煮、煮豆等の製品が生産され、生産活動の結果、アウトプットとして、水系に排水が、大気系にCO₂、NO_xが放出され、また廃棄物が排出されます。

このような生産活動による環境負荷のうち、「水の使用」「電力の消費」「重油・灯油の使用」「食品廃棄物の排出」「CO₂の放出」を著しい環境側面と特定し、これらの環境負荷低減のための活動を行いました。



【過去5年間(2004年度～2008年度)の実績について】

過去5年間の水の使用量、食品廃棄物の再生利用等の実施率、電力消費量、石油系燃料(重油・灯油)の消費量、CO2排出量の推移は下記のとおりです。

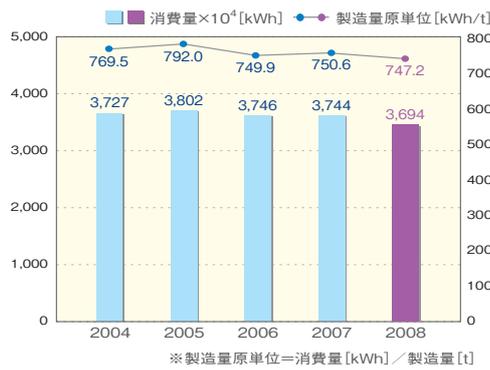
水の使用量の推移



食品廃棄物の再生利用等の実施率の推移



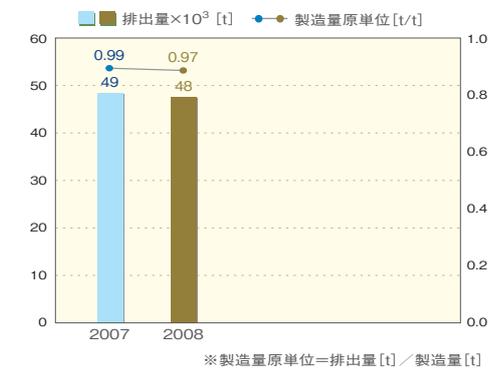
電力消費量の推移



石油系燃料の使用量の推移



CO2排出量の推移(2007年度より)



環境に関するご指摘

各事業所では、環境に配慮した生産を行うように努めておりますが、事業所近隣の方より、事業所内で気がつかないような環境影響について、ご指摘を受けることがございます。

このような近隣の方からのご指摘について、ひとつひとつ改善していくことで、より精度の高い環境管理を行っていきたいと考えております。

過去3年間(2006～2008年度)の、近隣の方からの環境に関するご指摘は、以下の通りです。

ご指摘内容	年度	事業所	対 策
ヨーグルト排水処理場の臭気	2006	西宮工場	一日の排水がその日のうちに放流されるように再調整し、薬品での消臭を行うように改善しました。
トラックのアイドリングの音	2006	西宮工場	アイドリングストップ看板を増設し、関連運送会社に要請及び指導を行いました。
詰め替えおせち用保冷車(冷凍機)の音	2006	和田山工場	保冷車の設置場所について、近隣の家屋の近くに止めないよう設置しました。
排出水の水質改善(行政よりの指示)	2006	フジコン食品	原水フィードポンプの過少流量に対するの発報が行えるように改造を行いました。また、原水フィードポンプの自動切換えによる自動運転が行えるようにシステムの改良を行いました。
排水処理場の臭気	2007	和田山工場	排水処理場の能力が低下したため、生産数量の調整・濃厚廃液・汚泥の産廃処理を行いました。
ヨーグルト排水処理場の臭気	2007	西宮工場	調整槽のブロアー時間の調整と排出量の調整を行いました。
エア-漏れの音	2008	和田山工場	エア-バルブの交換を行いました。また、異音について機械の監視を継続しました。
ヨーグルト排水処理場の臭気	2008	西宮工場	発生源の汚水槽上部に「蓋」を取り付け、臭気の拡散防止を図りました。また、臭気発生状況の把握のために、1日あたりの巡回点検頻度を上げました。
夜間の構内放送の音	2008	関東工場	屋外に設置されていたスピーカーを撤去しました。

事業所による環境 管理活動レポート



Contents

- 事業所による環境管理活動 [20]
- 環境保全に関する取り組みの歴史 [31]

事業所による環境管理活動

関東工場(生産品目:佃煮、煮豆、デザートなど)

【環境目標の達成状況】

目標	実績
水の使用量を前年より出荷重量対比で1%削減する	前年対比3.1%増加 ✕
食品廃棄物の再生利用等の実施率を100%にする	実施率98.7% ✕
電力消費量を前年より出荷重量対比で1%削減する	前年対比9.6%増加 ✕※
ボイラーで使用する重油の使用量を前年より出荷重量対比で1%削減する	前年対比15.9%増加 ✕※
地域の環境保全活動に参加する	実施 ○
工場周辺を定期的に清掃する	実施 ○

【環境負荷低減への取り組み】

- 電力消費量を削減するため、高効率型の蛍光灯照明器具を導入しました。
- ボイラー室内のヘッダーバルブに保温カバーを設置することにより、放熱によるエネルギーのロスを減少させました。
- 蒸気配管のスチームトラップの定期点検を実施し、不具合箇所の整備を随時行いました。



【地域環境への貢献活動】

- 渡良瀬遊水地クリーン作戦に参加しました。
- 工場外周の側溝清掃と除草を定期的に行いました。

※ 左記の対策を行いましたが、佃煮の増産により佃煮棟の稼働日数を増やしたため、電力・化石燃料の使用量が若干増加しました。更に工場全体の出荷重量は減少したために、出荷重量対比で大きく増加しました。



【過去5年間(2004~2008年度)の環境負荷データ】

	単位	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
水の使用量	m ³	401,352	389,610	372,158	392,808	371,399
食品廃棄物の再生利用等の実施率	%	100.00	100.00	100.00	98.70	98.71
電力の消費量	kwh	7,572,755	7,991,868	7,731,660	7,620,140	7,658,240
石油系燃料(重油・灯油)の使用量	m ³	1,884	1,863	1,947	2,040	2,167
CO ₂ 排出量	t				9,780	10,147
出荷重量	t	8,674	8,541	8,985	8,376	7,678

【環境目標の達成状況】

目標	実績
排水処理水の水量を1,046 m ³ 水質をBOD.値1,177ppm以内に収束させる	排水量1,071 m ³ BOD.値842ppm ×
廃棄物のリサイクル率75%を達成させる	再利用率78% ○
電力消費量を前年より生産パック数対比で1%低減する	前年対比6.0%増加 ×*
CO ₂ 排出量を前年より生産パック数対比で1%低減する	前年対比5.0%増加 ×*
廃棄物の排出量を生産パック数対比で前年を維持する	前年対比100% ○
環境保全・改善活動を実施する	実施 ○

【環境負荷低減への取り組み】

- 排水処理の負荷低減のため、回収液の加熱殺菌を行いました。
- 廃棄物の再利用を促進する目的で、食品残渣を分別し、飼料に再利用しました。
- 電力消費量を削減する目的で、給排気装置の夜間停止、冷蔵庫の温度設定を見直しました。
- 電力消費量を削減する目的で、省エネタイプのエアコンへの入れ替えとエアコンの定期点検を行いました。
- 廃棄物の削減の目的で、佃煮原料の前処理工程に新しい異物選別機を導入し、原料由来の異物混入による廃棄ロスを低減させました。また、在庫調整を行い仕掛品の廃棄ロスを低減させました。

※以上の対策により電力消費量およびCO₂排出量は絶対量では前年より削減できましたが、出荷重量が減少したために出荷重量対比では増加してしまい目標は達成できませんでした。

【従業員への教育と啓蒙】

- 環境に影響のある作業の担当者を対象とした教育・訓練を行いました。

【地域環境への貢献活動】

- 船橋市主催の清掃活動への参加、定期的な工場周辺の清掃活動を行いました。



【過去5年間(2004~2008年度)の環境負荷データ】

	単位	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
水の使用量	m ³	242,430	247,656	267,935	321,595	303,794
食品廃棄物の再生利用等の実施率	%	90.11	91.67	89.55	88.00	94.00
電力の消費量	kwh	5,699,180	5,663,009	5,912,596	6,398,995	6,348,971
CO ₂ 排出量	t				9,100	8,939
出荷重量	t	8,480	9,158	9,615	10,480	10,039

※東京工場では、石油系燃料を購入していません。

横浜工場(生産品目:日配惣菜・ヨーグルト)

【環境目標の達成状況】

目標	実績
水の使用量を出荷重量対比で前年以下にする	前年対比2.9%増加 ×
電力消費量を出荷重量対比で前年以下にする	前年対比4.3%削減 ○
ガスの使用量(カロリー換算)を出荷重量対比で前年以下にする※	前年対比6.5%削減 ○
廃棄物の再利用率を前年より3%向上させる	前年対比6.5%減少 ×

※ガスについては、LPGから都市ガスへの転換を行いましたので、発生カロリー量で換算しました。

【環境負荷低減への取り組み】

- 水の使用量の削減の目的で、水元バルブでの水量調整を行いました。また、ボイル後の原料冷却用チラー水を蛇口からスプレーノズルに変更し節水しました。
- 電力消費量の削減の目的で、事務所のエアコンを省エネタイプに移行しました。また、玄関ホールの電灯をセンサーライトに変更しました。



- ガスの使用量の削減の目的で、炒め機をガス式から電気式(IH)に変更しました。また、各蒸気の配管システムの圧力を見直し、適度な圧力に調整しました。

【従業員への教育と啓蒙】

- 毎月のエネルギーおよび水の使用状況をグラフにて掲示すると共に、エネルギー使用量を朝礼で広報しました。



【地域環境への貢献活動】

- 植木剪定、工場前の歩道や道路の清掃を行いました。



【過去5年間(2004~2008年度)の環境負荷データ】

	単位	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
水の使用量	m ³	46,074	46,594	46,395	39,205	47,509
食品廃棄物の再生利用等の実施率	%	45.37	100.00	100.00	100.00	100.00
電力の消費量	kwh	1,321,661	1,523,100	1,514,400	1,412,580	1,593,024
CO ₂ 排出量	t				1,657	1,682
出荷重量	t	543	1,294	1,741	1,799	2,120

和田山工場(生産品目:煮豆・塩吹昆布など)

【環境目標の達成状況】

目標	実績
水の使用量を前年より出荷重量対比で1.2%削減する	前年対比13.9%削減 ○
食品廃棄物の排出量を前年より出荷重量対比で1%削減する	前年対比2.9%増加 ×※
電力消費量を前年より出荷重量対比で1%削減する	前年対比3.7%増加 ×※
石油系燃料の使用量を前年より出荷重量対比で1.2%削減する	前年対比3.4%増加 ×※
CO ₂ 排出量を前年より出荷重量対比で0.5%削減する	前年対比0.9%増加 ×※
諸資材の省資源化とグリーン購入の比率を45%以上にする	購入比率46.4% ○

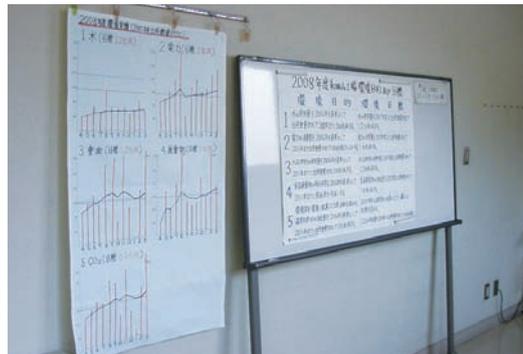
【環境負荷低減への取り組み】

- 水の使用量を削減するためにクーリングタワー補給水をレトルト殺菌機に再利用しました。
- レトルト冷却水を濾過して再度冷却水として使用しました。
- レトルト殺菌機の殺菌数量をアップして水の使用量を削減しました。
- 廃棄物削減のため、煮豆供給コンベアにカバー等を取り付け、こぼれを防止しました。また、供給ガイド・シュートを変更し付着ロスを低減しました。
- やわふくやさい豆の具材計量値を調整し、具材残の廃棄ロスを減少させました。
- 電力消費量を削減するため、包装機の稼働率を3%アップし、稼働時間の短縮を行いました。
- 高効率のトランスに更新しました。
- 排水処理場のブロアーの間欠運転と換気扇の停止を行いました。
- 重油の使用量を削減するため、汚泥乾燥機を重油バーナーから消化ガスボイラーに変更しました。
- 各ライン別に蒸気一時ストップバルブを取り付けて、未使用配管からの放熱の防止を行いました。
- 環境対応商品を優先的に購入した結果、グリーン購入比率46.4%となりました。

※以上の対策により、電力・石油系燃料の使用量および食品廃棄物CO₂の排出量は絶対量では前年より削減できましたが、出荷重量が減少したために出荷重量対比では増加してしまい目標は達成できませんでした。

【従業員への教育と啓蒙】

- 従業員向けに、家庭でできる省エネの資料を掲示し意識の高揚を進めました。
- 環境目的・環境目標および毎月の環境実績のグラフを掲示するとともに広報を行い、環境負荷低減活動を啓蒙しました。



【地域環境への貢献活動】

- 環境パトロールとして、毎月1回、工場内部と工場周辺を巡回し点検を実施しています。
- クリーン作戦として、工場周辺の右岸道路、円山川河川敷の清掃活動を行っています。



和田山工場(生産品目:煮豆・塩吹昆布など)

【過去5年間(2004~2008年度)の環境負荷データ】

	単位	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
水の使用量	m ³	318,763	293,034	330,291	355,012	293,394
食品廃棄物の再生利用等の実施率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
電力の消費量	kwh	6,098,730	5,760,670	5,873,251	6,010,712	5,977,837
石油系燃料(重油・灯油)の使用量	m ³	2,186	2,097	2,032	2,247	2,232
CO ₂ 排出量	t				10,406	10,069
出荷重量	t	8,515	7,941	8,356	8,821	8,462

加古川分工場(生産品目:煎り豆)

【環境目標の達成状況】

目標	実績
電力消費量を前年より出荷重量対比で1%削減する	前年対比23.1%削減 ○
工場周辺の清掃を定期的に行う	1回実施 ○

【環境負荷低減への取り組み】

- 電力消費量の削減の目的で、蛍光灯の点灯本数削減、点灯時間の短縮を行い、使用時に小まめに消すようにしました。
- 焙煎室の吸・排気ファンのインバーター化を行いました。

- エアコンによる除湿から除湿専用機を使用している除湿に変更し、電力の削減に取り組みました。

【環境負荷低減への取り組み】

- 美化運動として、工場周辺道路、加古川沿いの清掃を行いました。

【過去4年間(2005~2008年度)の環境負荷データ(加古川分工場については、2005年度からの実績となります)】

	単位	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
水の使用量	m ³	826	814	643	702
食品廃棄物の再生利用等の実施率	%	0.00	0.00	0.00	0.00
電力の消費量	kwh	169,004	165,180	14,216	14,472
CO ₂ 排出量	t			32	37
出荷重量	t	101.1	84.3	66.2	87.6

※加古川分工場では、石油系燃料を購入していません。

鳴尾生産事業部(生産品目:佃煮・包装惣菜など)

【環境目標の達成状況】

目標	実績
水の使用量を出荷重量対比で前年を維持する	前年対比20.6%削減 ○
食品廃棄物の再生利用等の実施率を20%にする	実施率100% ○
電力消費量を出荷重量対比で前年以下にする	前年対比20.1%削減 ○
燃料(LPG、都市ガス)の使用量を出荷重量対比で前年を維持する	前年対比18.8%削減 ○
地域保全活動を実施する	実施 ○

【環境負荷低減への取り組み】

- 水の使用量を削減する目的で、冷凍品の流水解凍設備を見直しました。
- クーリングタワーの濾剤更新により冷却能力をアップし、冷却に必要な水を削減しました。
- 食品廃棄物の再利用等の実施率を向上させる目的で、全ての食品残渣を堆肥化しました。
- 袋物佃煮の外装をシュリンクフィルムからPPバンドに変更することにより、包装に掛かる電力を削減しました。
- 電力消費量を削減する目的で、ファンの完全インバーター化、省エネベルトへの完全切り替え、エアコンプレッサーの削減を実施しました。



- 燃料の削減の目的で蒸気配管の蒸気漏れをなくしました。

【地域環境への貢献活動】

- コンビナート協議会主催の年2回の清掃活動に参加しました。



【過去5年間(2004~2008年度)の環境負荷データ】

	単位	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
水の使用量	m ³	223,630	235,258	221,538	267,525	249,787
食品廃棄物の再生利用等の実施率	%	27.97	3.23	25.10	100.00	100.00
電力の消費量	kwh	6,096,580	7,087,066	6,665,399	6,485,959	6,088,323
石油系燃料(重油・灯油)の使用量	m ³	1,862	1,845	1,574	0	0
CO ₂ 排出量	t				7,539	7,140
出荷重量	t	6,700	6,499	6,572	6,834	8,033

西宮工場(生産品目:納豆、佃煮、ヨーグルトなど)

【環境目標の達成状況】

目標	実績
水の使用量を前年より出荷重量対比で1%削減する	前年対比 13.6%削減 ○
電力消費量を前年より出荷重量対比で1%削減する	前年対比 0.3%増加 ×※
灯油使用量を出荷重量対比で前年以下にする	前年対比 6.3%増加 ×※
CO ₂ 排出量を前年より出荷重量対比で1%削減する	前年対比 2.4%増加 ×※
工場周辺の定期清掃活動の継続と周辺美化を実施する	実施 ○

【環境負荷低減への取り組み】

- 水の使用量削減のため、節水バルブを工場内に2箇所設置しました。
- 納豆の原料豆の前処理工程の見直しにより、洗浄水を削減しました。
- 電力消費量を削減するため、電灯使用数量を削減しました。また、袋物佃煮製品の外包装を、シュリンク包装からPPバンドに変更しました。



- 灯油の使用量を削減するため、ボイラー運転の停止を細かく管理しました。
- 蒸気漏れ箇所の修理を行いました。

※以上の対策を実施しましたが、従来品より蒸気使用量の多い新商品の生産の開始、冷蔵庫の増設により、電力・灯油の使用量およびCO₂排出量が昨年より増加しました。

【従業員への教育と啓蒙】

- 環境負荷低減のため、水の使用量、電力消費量、灯油使用量を毎月集計し広報しました。

【地域環境への貢献活動】

- 地域環境の向上のため、工場周辺の清掃を毎週実施し、近隣住宅付近と工場敷地境界の植木の剪定を行いました。
- 歩きタバコ禁止の注意看板を更新しました。
- 工場の立地している地域の清掃活動に参加しました(12月)。



【過去5年間(2004~2008年度)の環境負荷データ】

	単位	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
水の使用量	m ³	25,838	20,017	21,070	19,659	17,561
食品廃棄物の再生利用等の実施率	%	38.44	28.84	19.70	86.33	100.00
電力の消費量	kwh	1,266,470	1,123,523	1,103,816	1,031,100	1,068,970
石油系燃料(重油・灯油)の使用量	m ³	167	135	127	133	146
CO ₂ 排出量	t				907	960
出荷重量※	t	2,516	2,446	2,517	1,666	1,722

※2005年度までは、西宮工場外で生産している製品も出荷重量に含めていましたが、2006年度からは工場内で生産している製品のみを出荷重量として計算しています。

【環境目標の達成状況】

目標	実績
水の使用量を前年より出荷重量対比で0.5%削減する	前年対比27.5%削減 ○
食品廃棄物のリサイクル率を前年より2%向上させる	前年対比12.8%増加 ○
電力消費量を前年より出荷重量対比で0.5%削減する	前年対比12.0%削減 ○
石油系燃料の使用量を前年より出荷重量対比で1.5%削減する	前年対比19.6%削減 ○
CO ₂ 排出量を前年より出荷重量対比で1%削減する	前年対比15.7%削減 ○
地球環境に優しい活動に取り組む	実施 ○

【環境負荷低減への取り組み】

- 水の使用量を削減するため、佃煮原料洗浄機の洗浄水について、流水方式を止めて循環使用方式に変更しました。
- 漬物連続殺菌機とレトルト殺菌機の効率運転を行いました。
- 水漏れ箇所の点検と修理を行いました。
- 食品廃棄物の削減のため、とろろ昆布の切削くず昆布を粒子化することによる再利用化と漬物ゴミの圧搾による減量、および佃煮切断工程で生じた変形昆布のとろろ昆布への使用を行いました。
- 電力消費量の節減のため、エア配管経路の変更および増幅を行いました。また、シリンダー交換によりエア漏れを防止しました。
- 電力消費量の節減のため、チラー稼働時間の短縮および設定温度を見直しました。また、冷暖房の温度設定を変更しました。
- 石油系燃料の使用量を削減するため、蒸気もれの点検と修理を行いました。また、ガスボイラーの燃焼時間の管理と有効運転を実施しました。
- 石油系燃料の使用量を削減するため、蒸気配管の交換と保温材劣化部分の補修を実施しました。また、レトルト殺菌機への断熱材の設置を行いました。
- 地球環境にやさしい活動として、積載効率を上げて製品配送定期便の減便に取り組みました。

【従業員への教育と啓蒙】

- 朝礼で、環境目標とこれに対する取り組みについて全社員への周知を図りました。
- グループ毎に環境負荷削減目標を立て、実行計画書を作成し計画的に改善に取り組みました。また、月々の達成度を実行計画書に記載し、環境掲示板に掲示し広報しました。
- 環境管理委員会を毎月開催し、実施状況の進捗確認と改善活動に取り組みました。

【地域環境への貢献活動】

- 定期的に会社周辺の清掃活動を行いました。

【過去5年間(2004~2008年度)の環境負荷データ】

	単位	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
水の使用量	m ³	291,106	262,457	239,639	234,676	192,214
食品廃棄物の再生利用等の実施率	%	3.88	12.57	14.44	21.88	34.67
電力の消費量	kwh	2,892,072	2,611,185	2,524,970	2,370,640	2,355,536
石油系燃料(重油・灯油)の使用量	m ³	449	470	420	445	404
CO ₂ 排出量	t				2,525	2,403
出荷重量	t	2,101	1,859	1,770	1,718	1,940

※2007年度まで別の食品に再利用した昆布の異型切断品を再生利用量に含めて計算していたのを是正しました。

フジッコフーズ(株)(生産品目:デザート・煮豆・調味食品など)

【環境目標の達成状況】

目標	実績
水の使用量を出荷重量対比で前年を維持する	前年対比17.6%増加 ×
電力消費量を出荷重量対比で前年を維持する	前年対比9.1%増加 ×※
石油系燃料(重油)の使用量を出荷重量対比で2006年以下にする	2006年対比11.8%増加 ×※
食品廃棄物以外の廃棄物の再資源化に取り組む	実施 ○
ナタデココ残渣の減量化	実施 ○

【環境負荷低減への取り組み】

- 水の使用量を削減するため、真空ポンプを水冷式から空冷式へ更新変更しました。
- 洗浄水の節水および清掃水(水ボウキ)の禁止を徹底しました。
- 食品残渣の減量化のため、ブドウ絞り機を用いてナタデココ残渣を脱水しました(168t/年)。
- 廃プラ類の分別と処分業者の変更により、RPF(固形燃料)化を行いました(19.18t/年)。
- 重油の使用量削減のため、レトルト温水槽両端半球部分に保温材を貼付けました。
- 重油の使用量削減のため、簡易型スチームトラップ診断機で定期的にトラップ診断を行い、不良トラップの交換時期を早めました。また、煮豆煮熟装置用の温水製造装置の蒸気弁の修理と温水配管の保温処理を行いました。

- 構内外灯の水銀灯を日照時間や生産増減に応じて点灯時間を変更しました。
- ※以上の対策により、電力消費量および石油系燃料の使用量は絶対量では前年より削減できましたが、出荷重量が減少したために出荷重量対比では増加してしまい目標は達成できませんでした。

【従業員への教育と啓蒙】

- 朝礼で蒸気の無駄遣い、蒸気漏れ箇所の早期修理等を要請しました。

【地域環境への貢献活動】

- 境港市の一斉清掃に合せて、工場周辺と国道431号線の清掃活動を行いました。
- 毎日の工場周囲の車道・歩道の落ち葉、ゴミ拾いを実施しました。



- 電力消費量の削減のため、ムロ空調制御を変更しました。また、排水処理場のフロアーの運転方法を変更しました。

【過去5年間(2004~2008年度)の環境負荷データ】

	単位	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
水の使用量	m ³	223,876	188,795	176,835	172,460	173,032
食品廃棄物の再生利用等の実施率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
電力の消費量	kwh	4,099,752	3,797,256	3,525,336	3,360,720	3,128,640
石油系燃料(重油・灯油)の使用量	m ³	1,276	1,217	1,211	1,272	1,117
CO ₂ 排出量	t				5,333	4,771
出荷重量	t	7,999	7,328	6,797	6,569	5,606

【環境目標の達成状況】

目標	実績
水の使用量を出荷重量対比で前年の150%以下にする	前年対比25.7%増加 ○
食品廃棄物の再利用等の実施率を97%にする	実施率 99.5% ○
電力消費量を出荷重量対比で前年を超えないようにする	前年対比6.2%削減 ○
重油の使用量を前年より出荷重量対比で1%削減する	前年対比0.3%削減 ×
一般廃棄物の削減や、工場内及び工場周辺をきれいにする活動を行い、地域環境保全に貢献する	実施 ○

【環境負荷低減への取り組み】

- 水の使用量を削減するため、洗ビン機の水の使用量を見直し、バルブ調整により必要な量まで絞りました。
- 蒸気漏れの箇所の修理を行いました。
- 食品廃棄物の再利用として、生ゴミの肥料化を行いました。
- 電力消費量を削減するため、新規に蛍光灯を設置する際には、高出力型へ変更しました。
- 電力消費量を削減するため、使用していない場所の蛍光灯とエアコンを消す活動を行いました。
- 外部コンテナ冷凍庫に遮熱塗料を塗装しました。



- ワインタンク室の照明を省エネ水銀灯へ変更しました。



【従業員への教育と啓蒙】

- 従業員に対して社会・環境報告書2008を使用して、環境に関する勉強会を実施しました。

【地域環境への貢献活動】

- 一般廃棄物を削減するため、デザートカップのフィルム抜きガラやビニール袋をリサイクル化する活動を行いました。
- 7月～9月にかけて、当社周辺道路の清掃・除草活動を毎週行いました。
- 甲州市主催の中央道周囲の清掃活動に参加しました。



【過去5年間(2004～2008年度)の環境負荷データ】

	単位	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
水の使用量	m ³	27,488	25,739	23,624	26,695	37,017
食品廃棄物の再生利用等の実施率	%	21.67	35.50	100.00	97.90	99.49
電力の消費量	kwh	1,004,730	1,023,570	1,102,482	1,204,524	1,245,408
石油系燃料(重油・灯油)の使用量	m ³	184	176	184	200	220
CO ₂ 排出量	t				1,212	1,288
出荷重量	t	2,905	2,837	3,137	3,402	3,752

本社部門

【環境目標の達成状況】

目標	実績
生産本部フロアの電灯・コンセントの電力消費量を前年より在籍人員対比で2%削減する	前年対比2.0%増加 ×
生産本部フロアの再生ゴミ比率を1%向上させる	前年対比8.6%向上 ○
地域清掃活動に参加する	実施 ○
朝礼等での環境教育を実施する	実施 ○

【環境負荷低減への取り組み】

- グリーン購入を進めるため、環境活動に積極的に取り組んでいる企業から備品を購入しました。
- 電力消費量を削減するため、パソコン・照明の電源をこまめに切るように啓蒙すると共に、クールビズを行いました。また、トイレの排気ファンを照明と連動させました。

【従業員への教育と啓蒙】

- 従業員に対する環境への意識付けのため、毎月の電力・水・ガスの使用量について回覧を行いました。

【地域環境への貢献活動】

- G8環境大臣会合にあわせて開催されたクリーンアップ作戦に参加しました。



【過去5年間(2004～2008年度)の環境負荷データ】

	単位	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
水の使用量	m ³	7,844	8,557	10,709	10,470	9,719
電力の消費量	kwh	1,217,443	1,270,250	1,339,456	1,529,414	1,459,853
CO ₂ 排出量	t				981	935

環境保全に関する取り組みの歴史

【取り組みの歴史年表】

1960	神戸市東灘区にて(株)富士昆布創業
1985	(株)富士昆布から現社名フジッコ株式会社へ社名変更 創業25周年を記念、全国に緑の松を植樹「フジッコ松」寄贈活動を開始
1994	フジッコワイナリー 排水処理の汚泥を肥料として出荷開始 関東工場 食品廃棄物の一部を外部にて肥料化
1996	関東工場 嫌気性排水処理施設導入
1997	鳴尾生産事業部 嫌気性排水処理施設導入
1998	和田山工場 嫌気性排水処理施設導入 フジッコワイナリー 焼却炉廃止
1999	和田山工場 焼却炉廃止
2001	和田山工場 ISO14001 認証取得 東京生産事業部 ISO14001 認証取得 東京生産事業部 嫌気性排水処理施設導入 関東工場 焼却炉廃止 フジッコワイナリー 糖廃液を肥料の発酵促進剤として出荷開始 フジコン食品 焼却炉廃止(全工場で小型焼却炉廃止)
2002	フジコン食品 ISO14001 認証取得 フジッコフーズ 嫌気性排水処理施設導入 生産本部 環境管理委員会設置
2003	フジコン食品 嫌気性排水処理施設導入 「2003環境報告書」 発行(以降、毎年発行)
2004	関東工場 コージェネレーションシステム導入
2005	フジッコフーズ(株) ナタデココ脱水機導入
2006	鳴尾生産事業部 灯油およびLPGを燃料とする設備を天然ガスに転換
2007	横浜工場 LPGを燃料とする設備を天然ガスに転換
2008	西宮工場 外装のシュリンク包装をPPバンド包装に転換 鳴尾生産事業部 外装のシュリンク包装をPPバンド包装に転換

【排水処理施設の導入】

工場からの排水は、全工場排水処理施設により処理しております。また、より省エネルギーで運転でき、余剰汚泥の減少ができる嫌気性排水処理施設を鳴尾生産事業部、和田山工場、関東工場、東京生産事業部、フジコン食品(株)、フジッコフーズ(株)に導入いたしました。

【焼却炉の廃止】

小形焼却炉を使用してゴミを焼却した場合、健康に悪影響を及ぼすダイオキシンが発生する恐れがありますので、2001年度に全ての工場の小形焼却炉を廃止いたしました。

【ISO14001認証取得】

2001年9月に、煮豆・佃煮業界では初めて和田山工場、東京生産事業部がISO14001の認証を取得しました。また、2002年には、フジコン食品(株)がISO14001の認証を取得いたしました。



<http://www.fujicco.co.jp/>

問い合わせ先

〒650-8558 神戸市中央区港島中町6丁目13番地4
フジッコ株式会社 経営企画室 Tel 078-303-5921